

第19回
全国私立大学 附属・併設 中学校・高等学校
教育研究集会

テーマ：「研究力を身につけた人間を育む

～自立と共生をめざして～」

2014年10月31日(金)・11月1日(土)

於 金城学院中学校 高等学校

〒461-0011 名古屋市東区白壁四丁目64番地

TEL 052-931-6236 FAX 052-933-7454

第19回 全国私立大学附属・併設中学校・高等学校 教育研究集会 第二次案内 開催校ご挨拶

今回は、本校が標記研究集会の開催校として、全国より皆様をお迎えすることになりました。開催校として、本教育研究集会のテーマ「探究力を身につけた人間を育む～自立と共生をめざして～」に沿った教育研究集会となるように教職員一同、一丸となって努力する所存でございます。本校は、中学校と高等学校のキャンパスが少し離れて別々になっておりますので移動時間なども考え、今回は高等学校を会場として研究集会を行うことにしております。ただ、高校の方では現在、校舎建て替えの工事に入っており、何かとご不便をおかけすることと思っております。平にご容赦ください。

さて、少子化の波と目まぐるしく変わる価値観の時代を私学らしく生き抜いていく上で是非覚えておきたい言葉として「不易流行」があると思います。「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず」即ち、「不変の真理を知らなければ基礎が確立せず、変化を知らなければ新たな進展がない」、しかも「その本は一つ」即ち「両者の根本は一つ」であるというものです。「不易」は変わらないこと、即ち、どんなに世の中が変化し状況が変わっても絶対に変わらないもの、あるいは変えてはいけないうもの、これは私立学校の教育が拠って立つ建学の精神と言えるでしょう。逆に、「流行」は、変化している社会から求められるニーズに応えるためにどんどん変わっていくもの、あるいは変えていかなければならないもの、それは実際に行う教育改革そのものと言えるかもしれません。

「不易流行」は俳諧に対して説かれた概念ですが私立学校の在り方そのものにもそのまま当てはめることができます。昨今は、「不易」より「流行」が重視される風潮が顕著です。社会、特に企業からは「即戦力になる人材」や「直ぐに役に立つ知識」が期待されるようになりました。しかし、「即戦力になる人材」は往々にして基礎がしっかりしていないために寿命が短いことが多く、「直ぐに役に立つ知識」は今日、明日は役に立っても明後日には陳腐化します。

激動する現代、目先の価値観にとらわれ、短絡的に実用的なものを求めがちですが、教育という業に召されている私たちは、このような時代だからこそ、その困難を乗り越えていくためにも、探究力を身につけ、自立と共生をめざして歩んで行くことができる有為な人材を世に送り出す使命があるのではないかと思わされている今日この頃です。

今回の教育研究集会が、参加される先生方にとって、そのための有意義な場として用いられることを切に願うものです。日本のど真ん中、名古屋でお待ちしています。

金城学院中学校 高等学校
校長 深谷 昌一

研究授業 10月31日(金) 13:10~14:00

○英語科(中学校1年生):希望館1階 LL教室 担当者:島岡 久恵

GDM(Graded Direct Method)の教授法を用いた授業を行います。GDMでは、日本語を介さず、文法のルールを実際の場面から考え、自分の立場で表現します。授業では、実際に紙飛行機を作り、色を塗り、飛ばしたりしながら、makeの意味や使い方を学びます。

○国語科(中学校3年生):世光館1階 特別教室3 担当者:白井 基起

魯迅の『故郷』を題材にして、「閩土」と「楊おぼさん」の変化の比較を自分たちで整理してまとめてゆく中で、「故郷」全体の変化のありように気づきます。授業では、思考ツールとしてベン図を利用して、「閩土」と「楊おぼさん」の変化を比較分析していきます。

○総合的な学習の時間(Dignity)(中学校1年生):世光館1階 音楽室 担当者:水野 志帆子

相手に伝わりやすい言葉の使い方を身につけるための授業です。タブレットPCやプロジェクターを使用します。思考ツールを用いて、生徒たちの考えを分類し、グループごとの意見を比較しながら、どうしたら相手にわかりやすく言葉を伝えることができるかを、生徒たちの言葉でまとめていきます。また、携帯電話のLINE上で実際に起こったトラブルを映像で提示し、解決策を考えていきます。

○理科(中学校3年生):希望館3階 物理実験室 担当者:後藤 敬太

力の働かない運動では理論上等速直線運動となります。しかし、実際には地球上では等速直線運動にならないことを見出します。その原因を考察し、物体と地面に働く摩擦力や空気抵抗などに気づきます。そして、どのように実験を行えば等速直線運動に近づいていけるかを探求します。原因を考える際には、思考ツールとしてクラゲチャートを用いて、様々なアイデアを整理していきます。

○地歴公民科(高校2年生):世光館1階 特別教室2 担当者:武岡 基

新聞記事を取り入れた授業。研究授業では1つの新聞記事(1週間以内のもの)を使用したワークシートによる授業展開。年間テーマ「平和の対義語」とし、社会で起こっている「平和ではない状態」に関心を持たせ、「平和の対義語」にはどのようなことがあるかを考えます。1週間以内の新聞記事を扱うことによって、「今」社会で起こっている問題やできごとに興味を持たせます。新聞記事の文章を深く読み込むことによって、記事の要点を理解し、読解力・語彙力・文章力を向上させ、考える力・社会力を身につけます。「新聞切り抜き作品」作りでは、多くの新聞記事を収集し、記事の内容を比較・分類・整理します。

○地歴公民科と英語科の合科(高校2年生):世光館1階特別教室1 担当者:柳瀬 公代、山中 尚美

英国の紅茶文化の歴史的背景を考えます。英国の紅茶文化に貢献した人物の役割を理解し、英語でロールプレイを行います。英国、中国や紅茶の歴史に関する絵画や写真資料を使って、ある歴史的事実が他の事実とどのような関係にあるのかを考え、表現します。また、歴史的背景を理解した上で、SequenceとCause and Effectの英語表現を使って、歴史的事実が起こった順序や因果関係を表現します。

○数学科(高校3年生):世光館1階 調理実習室 担当者:三田 綾子

中学の時に習って何気なく使っている公式を、身近なものを使って確認するにはどうすればよいのか考えます。また、苦手な子が多い切り口の問題も、実際に切ってみて予想を立てることで解法のきっかけを見つけます。

○家庭科(高校2年生)世光館1階 被服実習室 担当者:池内 孝枝

折り込みチラシから様々な情報を得て、家族に応じたカレーライスをつくるために必要な食材選びをします。「フードポイント」を換算し、その結果を批判的に分析することによって、問題意識を持ち、主体的で自立した消費者になろうとする意識を高めます。

○情報科(高校2年生)希望館2階 コンピュータ室 担当者:加藤 和幸

身近な題材から問題を見つけ出し、問題解決の手法や手順を学びます。なかでもネット上で提供されている「数値データ」を目的にそって収集し、コンピュータの表計算ソフトを用いて整理、加工、グラフ化、分析などをすることにより、自らの問題解決に役立つ新しい情報としてまとめる方法を身につけます。

第2日目 11月1日(土)

時 間	内 容	場 所
9:00~	受付	世光館1階 玄関
9:30~ 11:00	分科会	
	(1) 「(管理職研修) 学校に勇気と元気を解発する学校評価」 名城大学大学院 大学・学校づくり研究科 教授 木岡 一明先生	希望館2階 会議室
	(2) 「高大連携の実践例」 金城学院大学 学長補佐 国際情報学部 国際情報学科 教授 大橋 陽先生 金城学院高等学校 教務課長 田中 武彦先生	世光館1階
	(3) 「理系科目と探究力」 名古屋大学 副研究科長 附属中等教育研究センター長 大学院教育発達科学研究科 教授 大谷 尚先生	世光館1階
	(4) 「ESD(持続可能な開発のための教育)の取り組み」 上智大学 総合人間科学部 教育学科 教授 田中 治彦先生	世光館1階
(5) 「本校の『探究力を育む授業』: Dignity(総合的な学習の時間)の取り組み」 同志社女子大学 現代社会学部現代こども学科 大学院国際社会システム研究科 教授 藤原 孝章先生 金城学院高等学校 カリキュラム研究部長 柳瀬 公代先生	世光館1階	
11:10~ 12:00	生徒発表 1. Dignity(総合的な学習の時間)のプレゼンテーション 2. 語学研修旅行について ①アメリカ語学研修旅行 ②イートンカレッジ サマースクール(イギリス) 3. パイプオルガン演奏 4. ハーブアンサンブル演奏 5. グリークラブ(合唱)演奏	榮光館
12:00~ 12:30	閉会行事・事務連絡	榮光館

分科会 11月1日(土) 9:30~11:00

(1) 「(管理職研修) 学校に勇気と元気を解発する学校評価」

講師：名城大学大学院教授 木岡 一明 氏

《概要》 評価は変化を求めます。しかし、変化はリスクを伴うために、人々を怖じけさせます。そこで、学校を萎縮させる「学校評価」ではなく、学校から、変化に向けて踏み出す勇気と、変化を推進する元気を解発（引き出す）ための「学校評価」について、参加者の方々とともに考えを深めていきたいと考えています。

文部科学省の「学校評価ガイドライン」は、主に公立の義務教育諸学校を念頭においてまとめられています。また、「改善」を意識するあまり、不備や不足に目を向けすぎて、持ち味や強みを活かそうとする発想に欠ける学校もあります。こうした問題について、少しでも考えを補えればと願っています。

(2) 「高大連携の実践例」

講師：金城学院大学教授 大橋 陽 氏

金城学院高等学校教諭 田中 武彦 氏

《概要》 2005年度より高等学校3年生のうち内部推薦制度を利用して金城学院大学に進学する生徒に大学キャンパスで大学の講座を受講し、その単位を高等学校および大学の両者の卒業に要する単位として認定する高大接続連携授業の制度を持っている。

高等学校側から①この制度が発足した経緯と②送り出す生徒、教員の意識、③昨年度の受講生に対するアンケート結果を説明する。

また、大学側では、高大接続連携授業を受講した学生に対し、今年度、アンケート調査を行った。それに基づき、①連携授業の意義、②連携授業が大学教育のあり方を振り返るのに良い機会であることを説明し、③より幅広い高大連携の可能性について展望する。

(3) 「理系科目と探究力」

講師：名古屋大学大学院教授 大谷 尚 氏

《概要》 この講演では、講演者の専門に加えて、スーパーサイエンスハイスクールである名古屋大学教育学部附属中・高等学校の校長を3年間兼務した経験から、理系科目の教育の共通の基盤となり、かつ共通の問題や課題となるようないくつかの重要なことについて、具体的な事例をまじえながらお話をします。主なトピックは、理系科目で育もうとする科学的な認識と、時にはオカルト的でさえある実際の生活上の認識との乖離、科学的関心の低下、科学とテクノロジーとの関係、科学技術の革新と社会の肯定的・否定的変化などです。これらを通して、理系科目と探究力についてご一緒に考えましょう。

(4) 「ESD (持続可能な開発のための教育) の取り組み」

講師：上智大学教授 田中 治彦先 氏

《概要》 「国連・ESD (持続可能な開発のための教育) の10年(2005-14)」が設けられた経緯と日本での実施状況について解説する。「持続可能な開発」の考え方について理解する。ESDと従来の環境教育や開発教育・国際理解教育との連続性と違いについて考える。国内でのさまざまな実践事例を参考にしながら、参加型学習の教材やESDカリキュラムについて紹介する。ESD実践のうえでの重要なポイントについて解説する。2015年度以降のESDについて展望し、今後の実践上の課題についても議論したい。

(5) 「本校の『探究力を育む授業』: Dignity(総合的な学習の時間)の取り組み～高等学校を中心として～」

講師：同志社女子大学教授 藤原 孝章 氏

金城学院高等学校教諭 柳瀬 公代 氏

《概要》 本校のDignityは、探究力の育成を重視しています。このため高校のプログラムでは、問う力、分析する力や批判的思考力などのスキルを育てるスキル・ベースド・アプローチを採用しています。高1は、論理的文章の構造や読み方、書き方を学んだ上でテキスト批評に取り組みます。高2は、リサーチクエスチョンや仮説を設定した上で、リサーチ、分析を行い、プレゼンテーションを行います。分科会では、総合学習の発足時から現在に至るプログラムの変遷や現行プログラムの内容、生徒の自己評価から見える実践の成果と課題を報告します。

生徒発表 11月1日（土）11:10～12:00

1. Dignity（総合的な学習の時間）のプレゼンテーション

Dignityでは、論理的思考力を養うための授業を行っております。

高校1年では、岩波ブックレットのテキスト批評に取り組み、その中で研究力の基礎を身につけます。今回はクラス代表の生徒が発表を行います。

2. 語学研修旅行について

本校では、アメリカ語学研修旅行（ハワイ 10 日間）とイートンカレッジサマースクール（イギリス 20 日間）2つのプログラムを実施しております。これらのプログラムを通じて異文化交流を体験することにより、多様な視点から物事を捉えることを学び、それが探究する力を養います。両研修の参加者より研修の紹介と研修を通して学んだことについてプレゼンテーションを行います。

- ① アメリカ語学研修旅行
- ② イートンカレッジ サマースクール（イギリス）

3. パイプオルガン演奏

【曲目】

- ① 天にまします われらの父よ（主の祈り）

4. ハープアンサンブル演奏

【曲目】

- ① サリーガーデン
- ② グリーンスリーブス

5. グリークラブ（合唱）演奏

【指揮】 小原 恒久

【曲目】

- ① 金城学院校歌
- ② 赤とんぼ
- ③ ふるさと